

# 2024年度 大阪大学 前期 数学 文系

1

$$C: y = |x^2 - 1| = \begin{cases} x^2 - 1 & (x \leq -1, 1 \leq x) \quad \cdots \textcircled{1} \\ -x^2 + 1 & (-1 \leq x \leq 1) \quad \cdots \textcircled{2} \end{cases}$$

(1) ①と $l: y = 2a(x+1)$ より,

$$x^2 - 1 = 2a(x+1)$$

$$(x-1)(x+1) = 2a(x+1)$$

$$(x+1)(x-1-2a) = 0 \quad \therefore x = -1, 2a+1$$

$0 < a < 1$ を考えると、これらはともに $x \leq -1, 1 \leq x$ を満たす.

次に、②と $l$ より,

$$-x^2 + 1 = 2a(x+1)$$

$$-(x-1)(x+1) = 2a(x+1)$$

$$(x+1)(x-1+2a) = 0 \quad \therefore x = -1, -2a+1$$

$0 < a < 1$ を考えると、これらはともに $-1 \leq x \leq 1$ を満たす.

よって、 $C$ と $l$ の共有点の座標は,

$$(-1, 0), (2a+1, 4a^2+4a), (-2a+1, -4a^2+4a) \quad \cdots \text{(答)}$$

(2)  $0 < a < 1$ より,

$$-1 < -2a+1 < 2a+1$$

であり,

$S_1$ :  $y = -x^2 + 1$ と $l$ で囲まれる部分の面積

$S_2$ :  $y = x^2 - 1$ と $x$ 軸で囲まれる部分の面積

$S_3$ :  $y = -x^2 + 1$ と $x$ 軸で囲まれる部分の面積

$S_4$ :  $y = x^2 - 1$ と $l$ で囲まれる部分の面積

とすると,

$-1 \leq x \leq -2a+1$ において $C$ と $l$ で囲まれる部分の面積は $S_1$ ,

$-2a+1 \leq x \leq 2a+1$ において $C$ と $l$ で囲まれる部分の面積は $S_4 - S_2 - (S_3 - S_1)$

であるから、これらが等しいとき、 $S_2 = S_3$ を考えて,

$$S_1 = S_4 - S_2 - (S_3 - S_1) \quad \therefore S_4 = 2S_2 \quad \cdots \textcircled{3}$$

ここで,

$$S_4 = \int_{-1}^{2a+1} \{2a(x+1) - (x^2 - 1)\} dx = \int_{-1}^{2a+1} \{-(x+1)(x-2a-1)\} dx$$

$$= -\left(-\frac{1}{6}\right) \{(2a+1) - (-1)\}^3 = \frac{4}{3}(a+1)^3$$

$$S_2 = \int_{-1}^1 \{-(x^2 - 1)\} dx = \int_{-1}^1 \{-(x+1)(x-1)\} dx$$

$$= -\left(-\frac{1}{6}\right) \{(1 - (-1))\}^3 = \frac{4}{3}$$

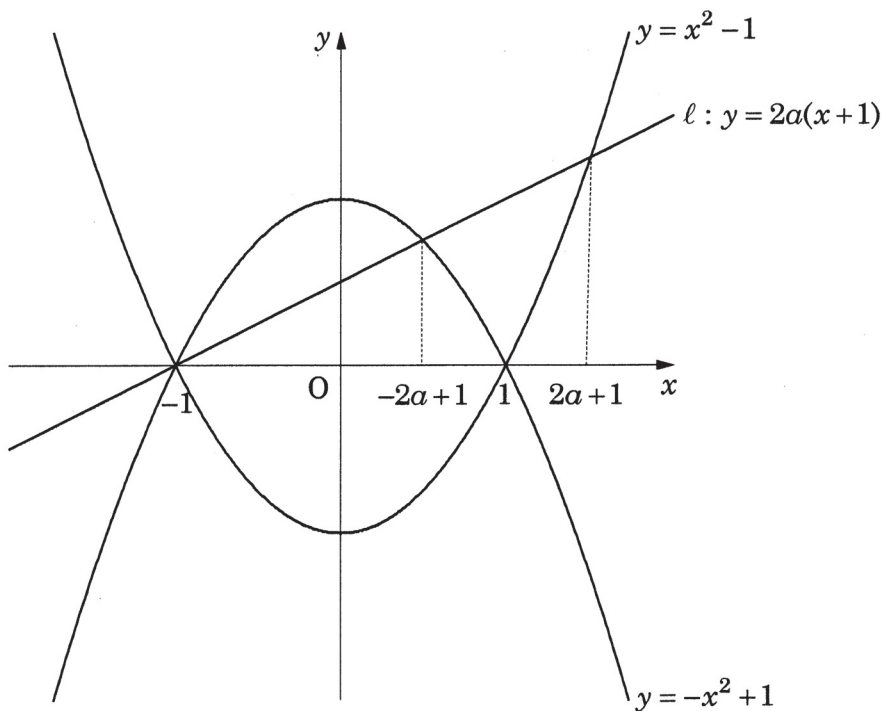
であるから、③より、

$$\frac{4}{3}(a+1)^3 = 2 \cdot \frac{4}{3} \quad \therefore (a+1)^3 = 2$$

$a+1$ は実数であるから、

$$a+1 = \sqrt[3]{2} \quad \therefore a = \sqrt[3]{2} - 1 \quad \dots (\text{答})$$

これは  $0 < a < 1$  を満たす。



2 原点を  $O$  とし、直線  $l$  上に点  $A$  をとる。また、 $l$ ,  $z$  軸の方向ベクトルの 1 つをそれぞれ  $\vec{u}$ ,  $\vec{v}$  とする ( $\vec{u} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{v} \neq \vec{0}$ )。

$l$  と  $z$  軸はねじれの位置にあるから、 $\vec{u}$  と  $\vec{v}$  は平行でない。よって、 $\vec{u}$  と  $\vec{v}$  のなす角を  $\theta$  とおくと、 $0 < \theta < \pi$  であり、

$$\cos \theta = \frac{\vec{u} \cdot \vec{v}}{|\vec{u}| |\vec{v}|} \neq \pm 1 \quad \therefore (\vec{u} \cdot \vec{v})^2 \neq |\vec{u}|^2 |\vec{v}|^2 \quad \dots\dots (*)$$

が成り立つ。

また、点  $P$  を  $l$  上、点  $Q$  を  $z$  軸上にとると、 $l$  と  $z$  軸はねじれの位置にあるから、 $\overrightarrow{PQ} \neq \vec{0}$  である。よって、 $l$  と  $z$  軸の両方に直交する直線は

$$\overrightarrow{PQ} \perp \vec{u}, \overrightarrow{PQ} \perp \vec{v} \text{ を満たす 2 点 } P, Q \text{ を通る直線}$$

として得られ、

$$「\overrightarrow{PQ} \perp \vec{u}, \overrightarrow{PQ} \perp \vec{v} \dots\dots \textcircled{A} \text{ を満たす 2 点 } P, Q \text{ がただ 1 組存在すること}」$$

を示す。実数  $s, t$  を用いて、

$$\overrightarrow{AP} = s\vec{u}, \overrightarrow{OQ} = t\vec{v}$$

$$\therefore \overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{PA} + \overrightarrow{AO} + \overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{AO} - s\vec{u} + t\vec{v}$$

と表せる。これを  $\textcircled{A}$  に代入すると、

$$\begin{cases} (\overrightarrow{AO} - s\vec{u} + t\vec{v}) \cdot \vec{u} = 0 \\ (\overrightarrow{AO} - s\vec{u} + t\vec{v}) \cdot \vec{v} = 0 \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} |\vec{u}|^2 s - (\vec{u} \cdot \vec{v}) t = \overrightarrow{AO} \cdot \vec{u} \\ (\vec{u} \cdot \vec{v}) s - |\vec{v}|^2 t = \overrightarrow{AO} \cdot \vec{v} \end{cases}$$

である。

ここで、 $a = |\vec{u}|^2$ ,  $b = \vec{u} \cdot \vec{v}$ ,  $c = |\vec{v}|^2$ ,  $d = \overrightarrow{AO} \cdot \vec{u}$ ,  $e = \overrightarrow{AO} \cdot \vec{v}$  とおくと、

$$\begin{cases} as - bt = d \\ bs - ct = e \end{cases}$$

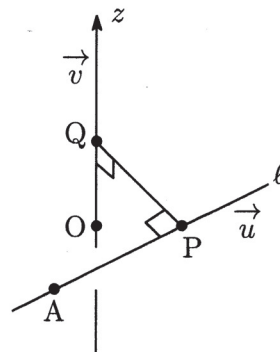
と表せ、 $(*)$  より、 $ac - b^2 \neq 0$  であることから、 $s, t$  について解くと、

$$s = \frac{cd - be}{ac - b^2}, \quad t = \frac{bd - ae}{ac - b^2}$$

であり、 $s, t$  はただ 1 組存在する。

したがって、 $l$  と  $z$  軸の両方に直交する直線がただ 1 つ存在する。

(証明終わり)



3

(1)  $p_n$  の定義より,

$$\begin{aligned} p_1 = 2, & \quad p_2 = 3, & \quad p_3 = 5, & \quad p_4 = 7 & \quad p_5 = 11, \\ p_6 = 13, & \quad p_7 = 17, & \quad p_8 = 19, & \quad p_9 = 23, & \quad p_{10} = 29, \\ p_{11} = 31, & \quad p_{12} = 37, & \quad p_{13} = 41, & \quad p_{14} = 43, & \quad p_{15} = 47 \end{aligned}$$

ゆえに,

$$p_{15} = 47 \dots\dots\dots(\text{答})$$

(2)  $n \geq 12$  のとき

$$(*) : p_n > 3n$$

が成り立つことを数学的帰納法で示す.

(I) (1)の結果より  $p_{12} = 37 > 3 \cdot 12$ . よって  $n = 12$  のとき (\*) は成り立つ.

(II)  $n = k$  ( $k \geq 12$ ) のとき (\*) が成り立つと仮定すると,

$$p_k > 3k$$

$p_k$  は奇数の素数だから  $p_k + 1$  は2より大きい偶数となり素数ではない. ゆえに,

$$p_{k+1} \geq p_k + 2 > 3k + 2 \quad \therefore p_{k+1} \geq 3(k+1)$$

$3(k+1)$  は3より大きい3の倍数だから素数ではない. よって,

$$p_{k+1} > 3(k+1)$$

以上より  $n = k+1$  のときも (\*) は成り立つ.

(I), (II) より  $n \geq 12$  のとき (\*) は成り立つ.

(証明終わり)